

令和7年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について①

豊かな人間性・他者との関わりについて

○・・・成果 ◆・・・課題 □・・・今後の展望

○小・中学校ともに「自分にはよいところがある」と答えた子どもの割合は、80%を超えていた。

◆小・中学校ともに「将来の夢や目標を持っている」と答えた子どもの割合は、減少した。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた子どもの割合は、約95%であった。

○小・中学校ともに「人が困っているときは、進んで助けていますか」と答えた子どもの割合は、増加した。

◆小・中学校ともに「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた子どもの割合は、全国を下回っていた。

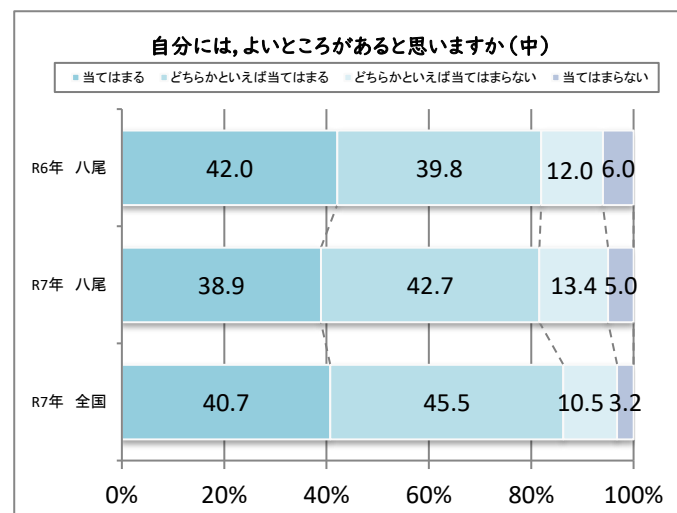
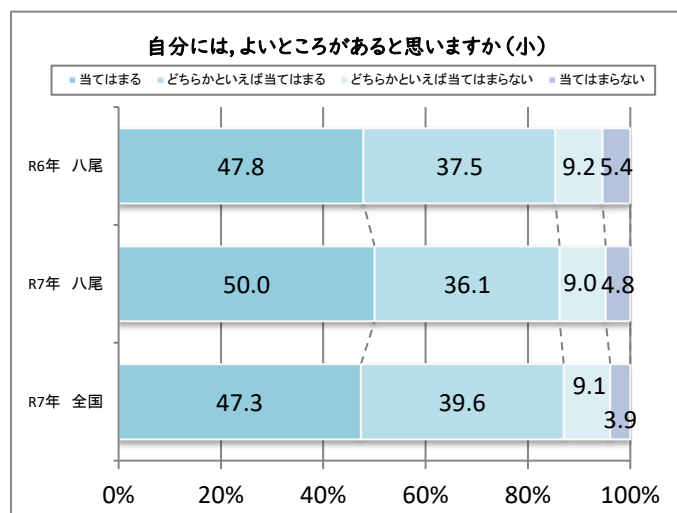
□「豊かな人間性・他者との関わり」については、肯定的回答の割合が増加または高水準を維持できている項目が多かった。一方で、全国と比較すると改善の余地がある項目も少なくない。児童生徒の現状をふまえ、より効果的な発達支持的生徒指導やキャリア教育、集団づくり等の推進を図る必要がある。

《調査について》

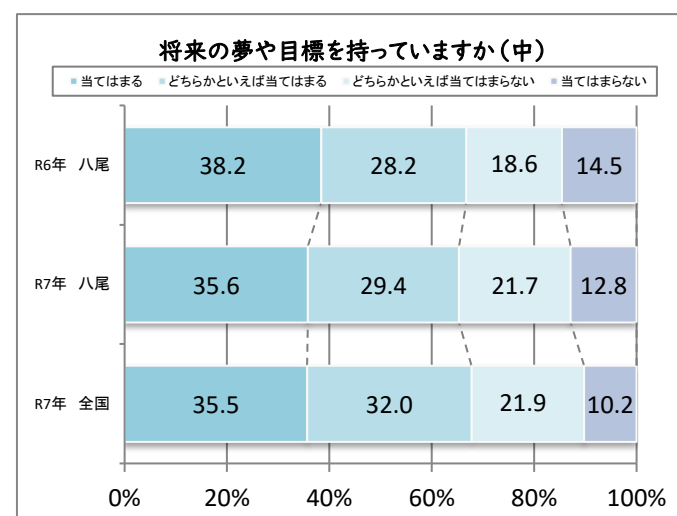
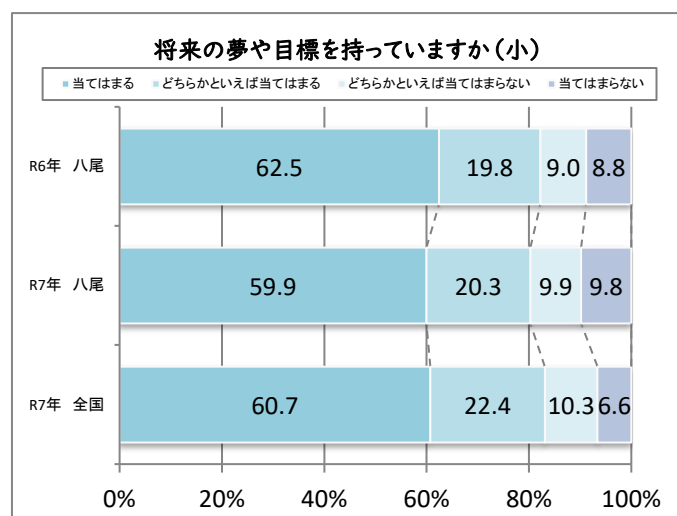
※グラフ内の数値は、無回答はデータに反映していないため、合計値は100にならない場合がある。

※小学校71調査設問、中学校70調査設問のうち、市として重点を置いている項目を抜粋して記載している。

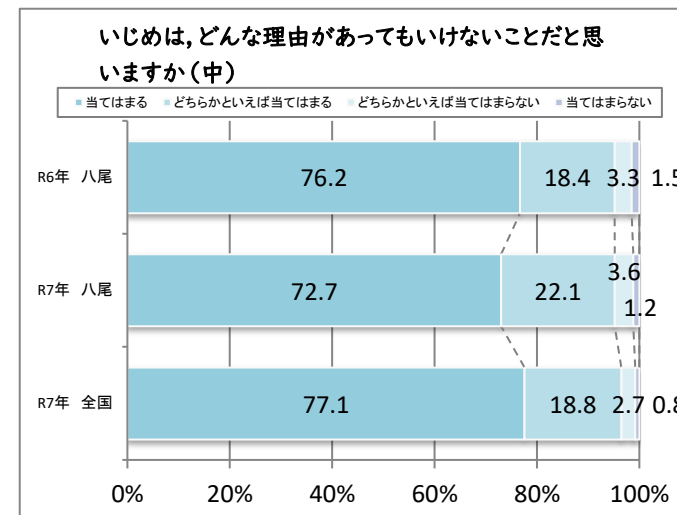
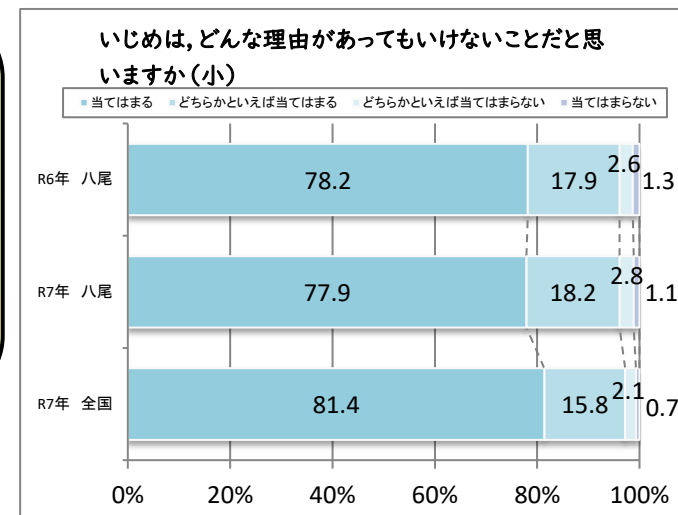
自己肯定感について



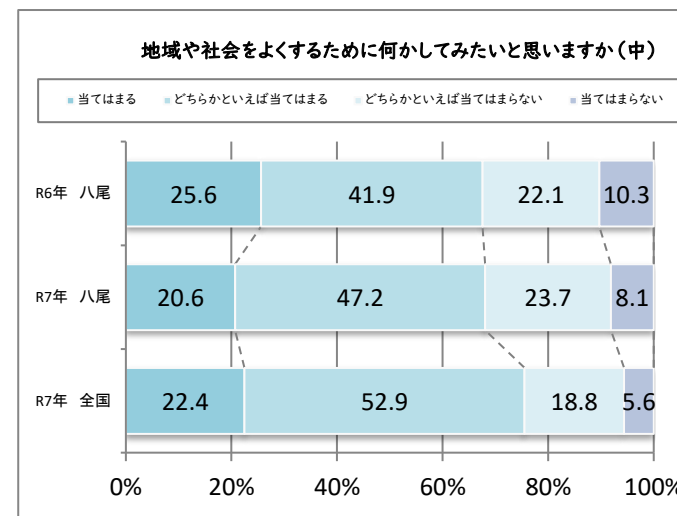
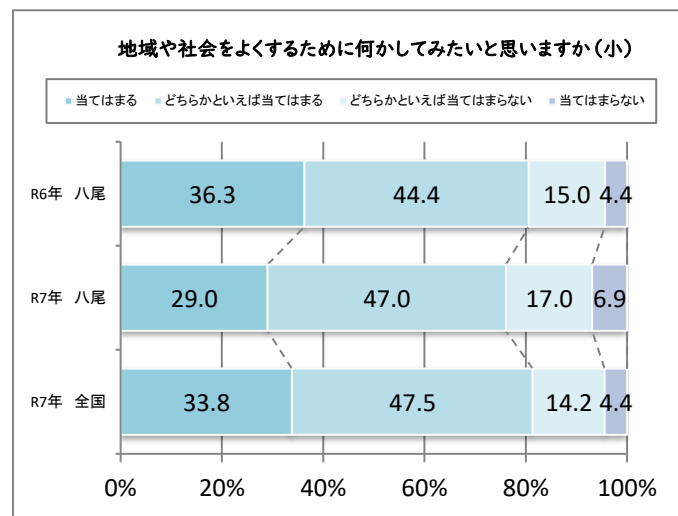
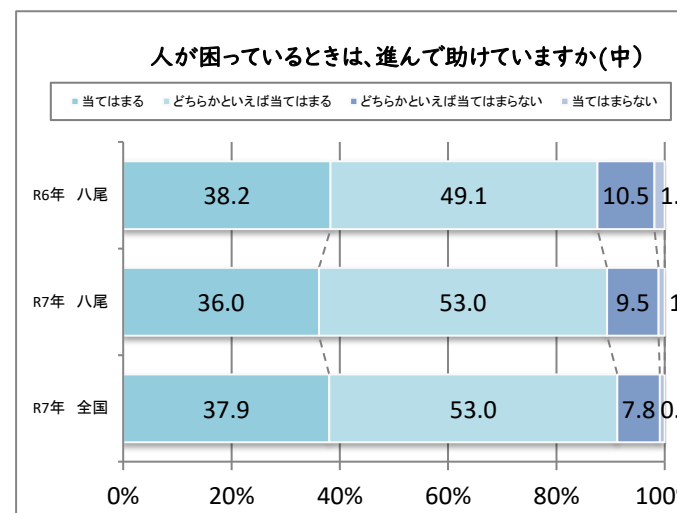
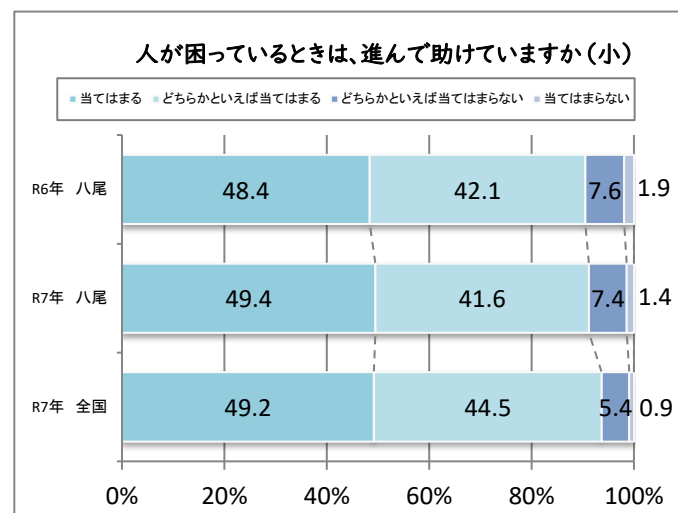
将来の夢について



いじめについて



他者との関わりについて



令和7年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について ②

基本的生活習慣・読書環境等について

○・・・成果 ◆・・・課題 □・・・今後の展望

○◆「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた子どもの割合は、小学校では増加し、中学校では減少した。

◆小・中学校ともに、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた子どもの割合は、全国を下回っている。

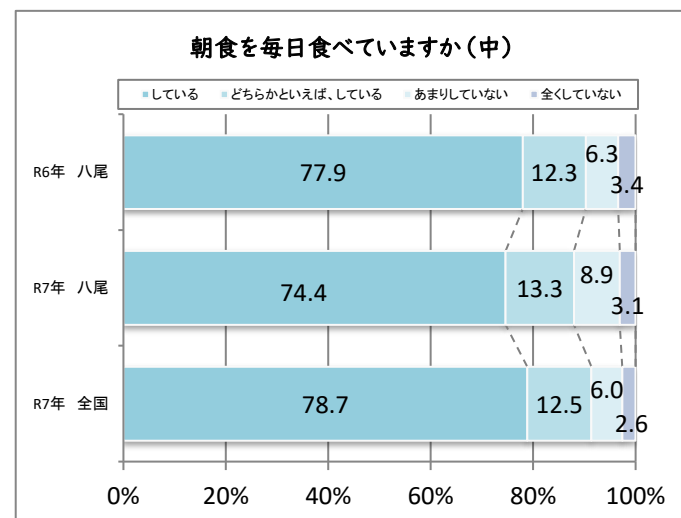
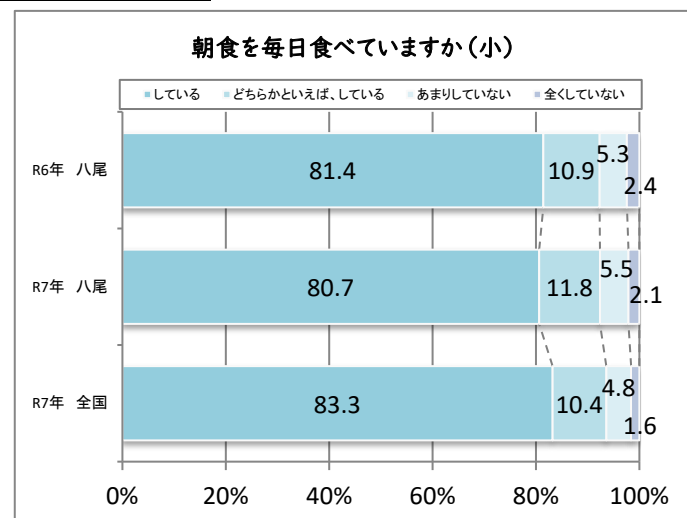
◆小・中学校ともに「新聞をまったく読まない」と答えた子どもの割合は、増加しており、全国と比較しても、高い結果だった。

◆小・中学校ともに、「読書が好き」と答えた子どもの割合は、全国と比較しても、低い結果だった。

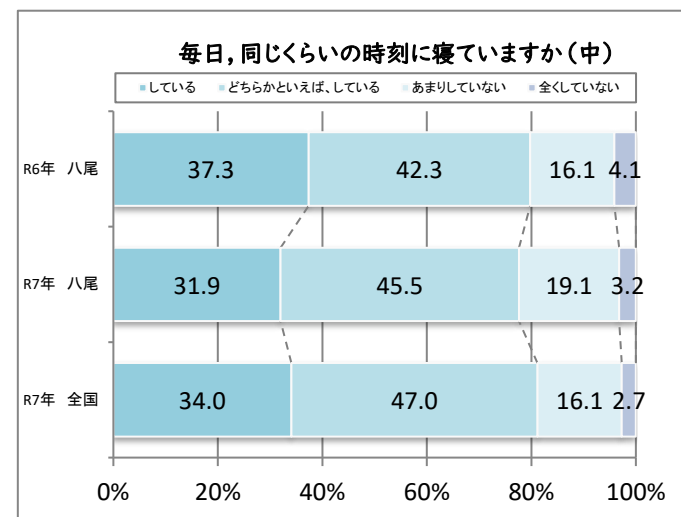
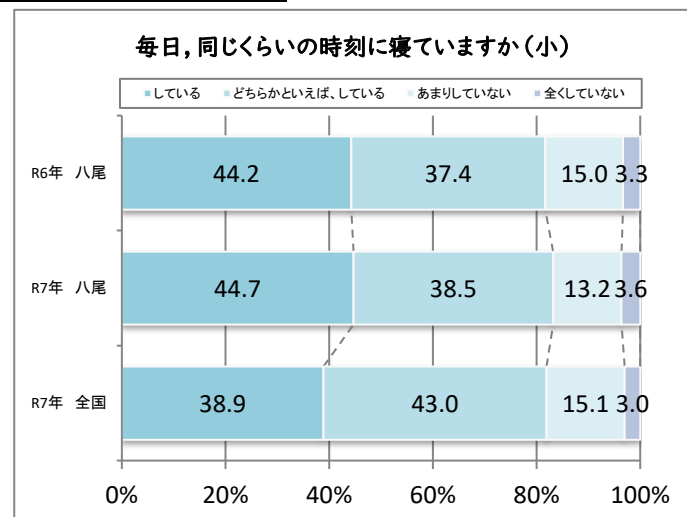
□「基本的生活習慣」については、改善が見られた項目がある一方、課題のある項目も多かった。全国と比較しても改善の余地が認められるため、家庭への啓発や連携を強化していくことが必要である。

□「新聞閲読」や「読書活動」については、昨年度および全国と比較すると課題が明らかになった。読書活動の推進や学校図書館の利活用、公共図書館との連携強化等を通して改善を図っていくことが必要である。

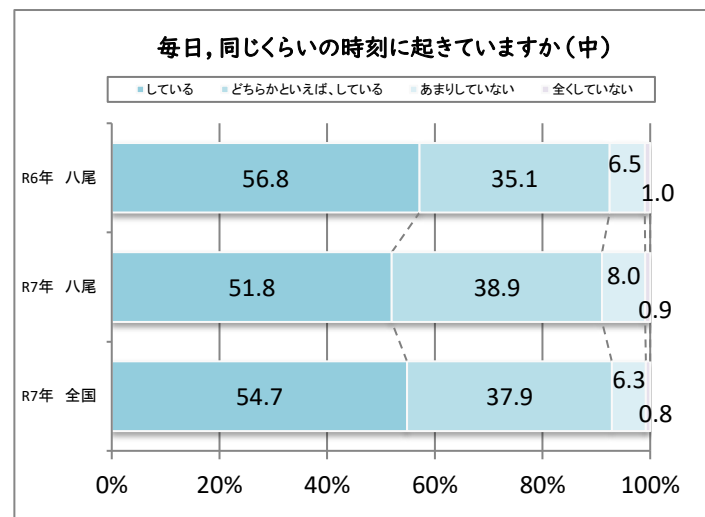
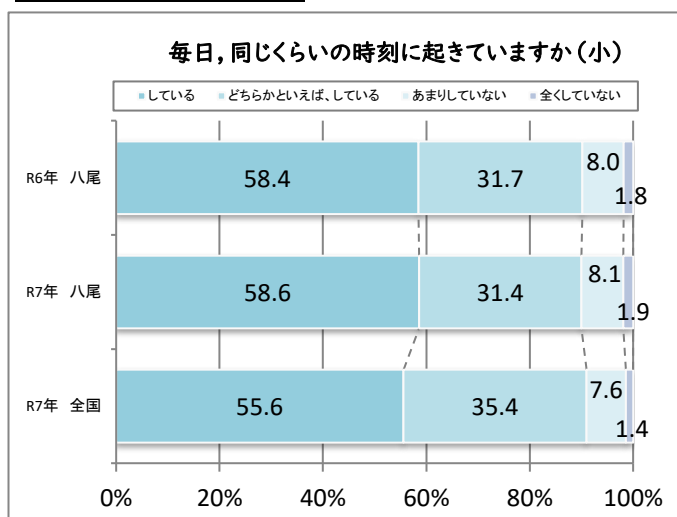
朝食について



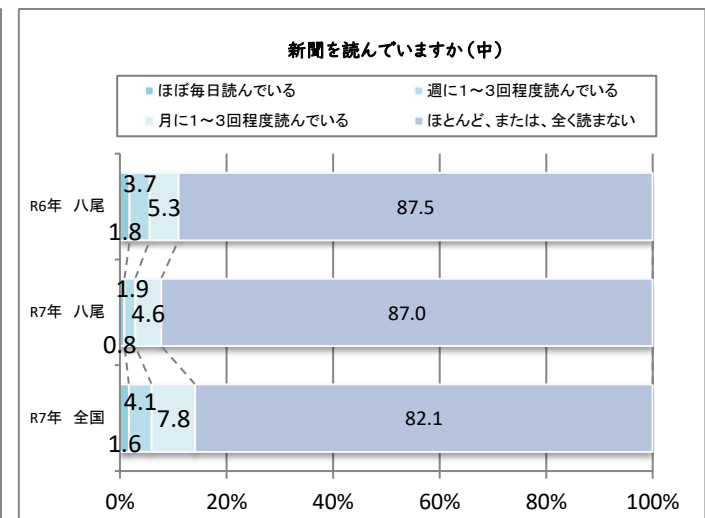
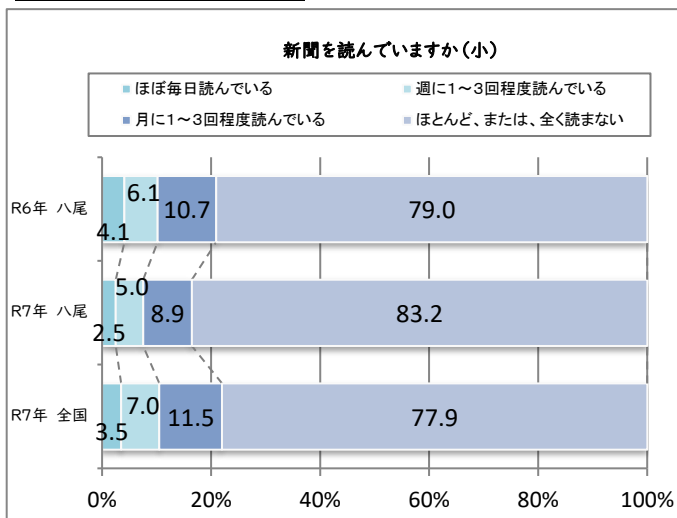
就寝時刻について



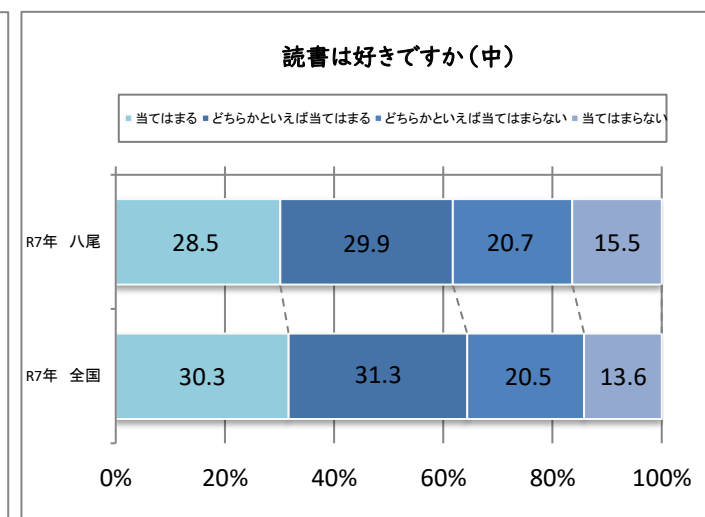
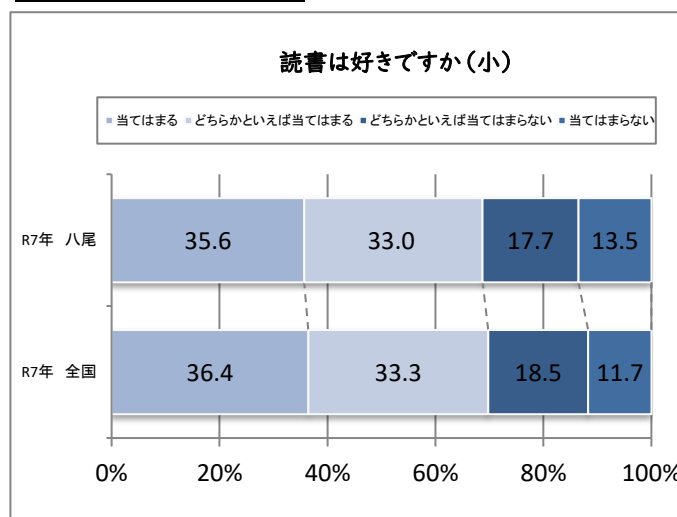
起床時刻について



新聞閲読について



読書活動について



令和7年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙の調査結果について ③

自学自習・ICT機器の活用・授業について

○・・・成果 ◆・・・課題 □・・・今後の展望

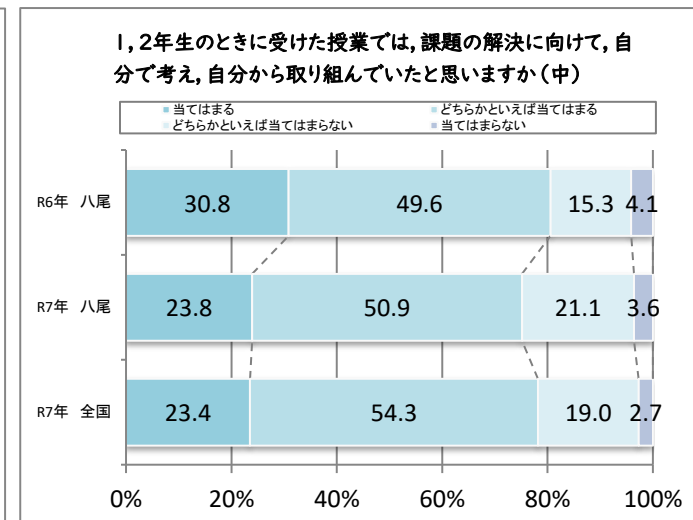
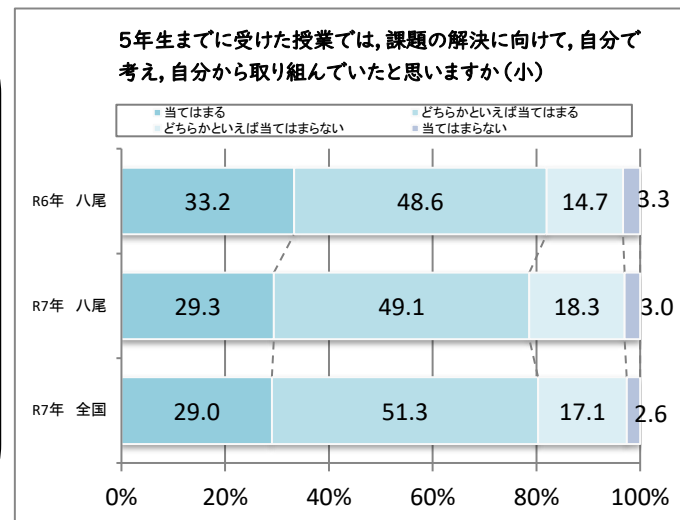
○◆小・中学校ともに、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりになっている勉強時間」について、昨年度よりも低い結果となったが、中学校は全国と比較すると高い結果となった。

○◆「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しているか」について、全国と比較すると、小学校は高い結果となったが、中学校は低い結果となった。

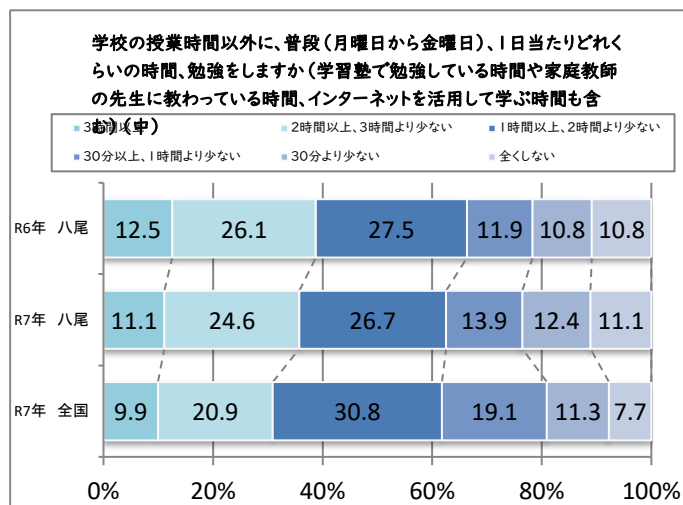
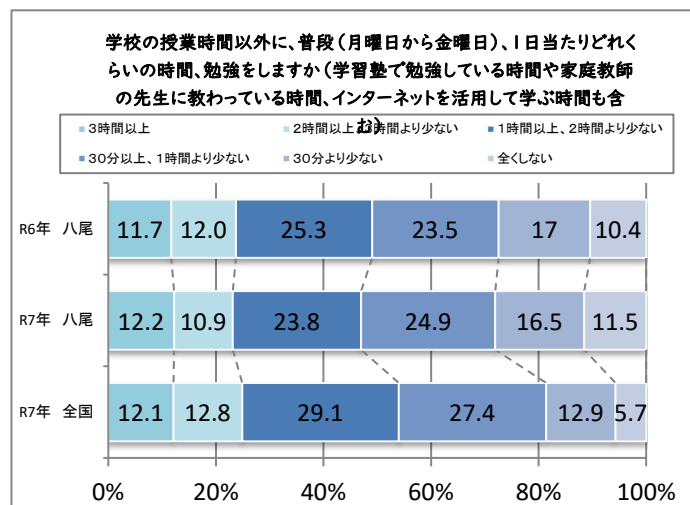
◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と答えた子どもの割合は、小・中学校ともに減少した。

□小・中学校ともに、子どもたちが主体的に課題を設定し、学んで得た知識や考えを相手を意識して表現・発信できる力を育成することが重要である。そのために、言語活動の充実と情報活用能力の育成を柱とした授業改善を今以上に進めていく必要がある。

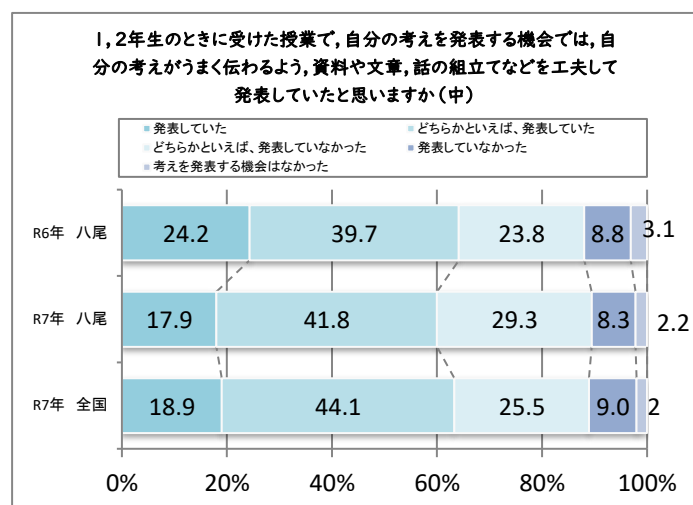
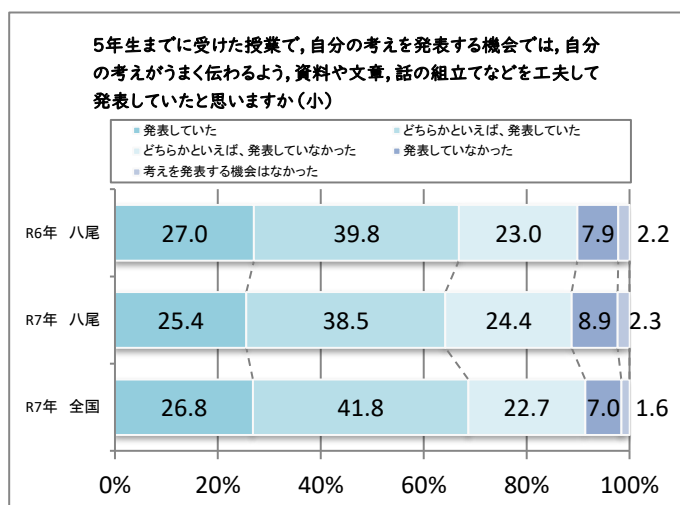
授業における主体性について



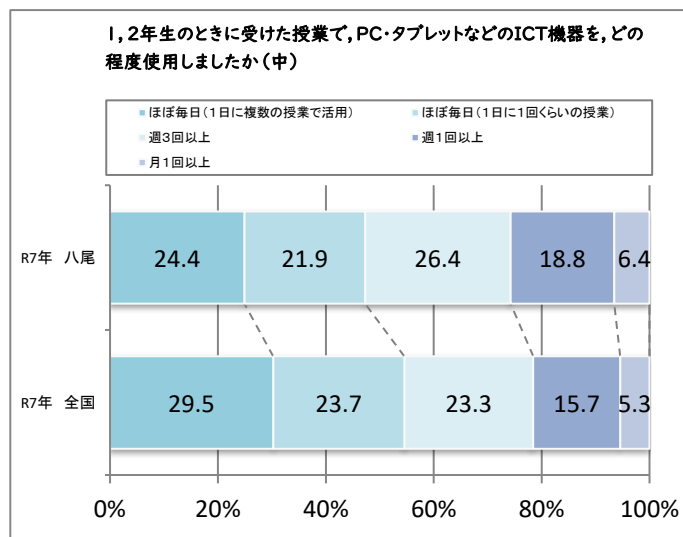
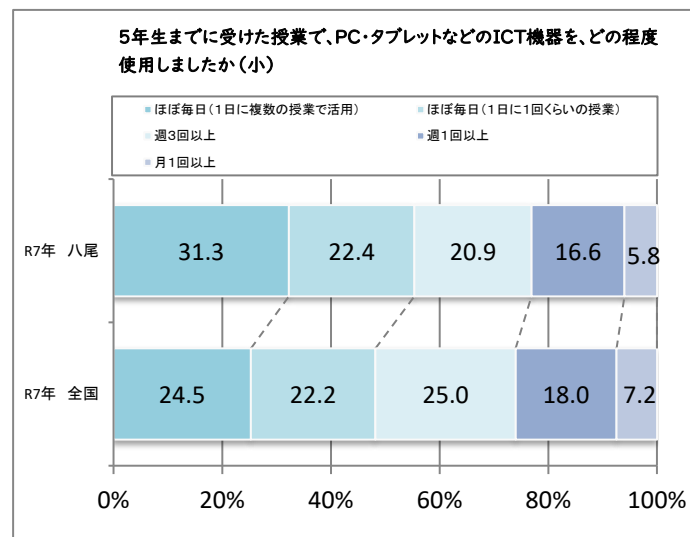
自学自習について



授業における発表の工夫等について



ICT機器の活用について



授業における話し合う活動について

